会　議　録

会議の名称		令和６年度　第３回　守谷市環境審議会		
開催日時		令和７年３月６日（木） 開会：午後１時３０分　　閉会：午後４時３０分		
開催場所		守谷市 中央図書館３階　視聴覚室		
事務局（担当課）		生活経済部　生活環境課		
出席者	委　員	清野会長、飯田委員、松井委員、滑川委員、加藤委員、鈴木委員、月岡委員、中村委員、仲田委員、稲川委員（10 名）		
	その他	協力事業者：（株）総合環境計画（３名）		
	事務局	松丸市長 鈴木部長、山﨑課長、小島課長補佐、古谷主査、高橋係長、森係長（７名）		
公開・非公開の状況		■公開　□非公開　□一部公開	傍聴者数	０人
公開不可の場合はその理由				
会　議　次　第		１．開会 ２．市長挨拶 ３．議題 協議事項 （１）令和７年度守谷市一般廃棄物処理実施計画について （２）第３次守谷市環境基本計画の策定について ４．報告事項 （１）令和６年度環境報告書について ５．その他 ６．閉会		

確　定　年　月　日	会　議　録　署　名
令和７年５月８日	会　　長　　清野　修

審　議　経　過

１．開会

２．会長挨拶

３．市長挨拶

４．議題

協議事項

（１）令和７年度守谷市一般廃棄物処理実施計画について

※省略

（２）第３次守谷市環境基本計画の策定について

清野会長：続きまして、本日の審議事項の２つ目、第３次守谷市環境基本計画の策定について、これを議題とします。事務局の方から説明をお願いします。

事務局　：協議事項（２）、第３次守谷市環境基本計画の策定について説明させていただきます。着座にて失礼いたします。守谷市では、守谷市環境基本条例に基づきまして、本市の環境保全に関する総合的な計画として守谷市環境基本計画を策定しております。現行の第２次計画の期間が令和７年度で終了するため、令和６年度、７年度の２カ年で次期計画を策定するものでございます。今年度は、計画策定について、本日同席をしていただいております株式会社総合環境計画と業務委託契約を締結して、現状調査及び市民、事業者、中学生へのアンケートを実施したほか、内容の検証などを行っております。本日は、前回の審議会における検討事項の整理や計画の体系、基本目標等についてご協議をいただく予定でございます。詳細につきましては、総合環境計画の皆様からお願いしたいと思います。それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局より資料２－１、参考資料１～３の説明】

清野会長：前回の審議会の意見に対する回答ということですが、ご意見があればお願いします。

飯田委員：温室効果ガス排出量ですが、この数字は意味がある数字なのでしょうか。参考資料１で排出量の計算方法が示されていますが、例えば産業部門の計算式を見ると、製造品出荷額からCO_2排出量を逆算しているため、CO_2を削減するには製造品出荷額を抑えることしか方法がない。そうなると、例えば市内のある事業者が環境に対する意識が高くて、再生可能エネルギーなどを一生懸命使って、製造品出荷額が高いのにも関わらずCO_2排出を抑えていても全く反映されないと思います。そういう意味で、あんまり意味のない数字ではないかと思います。他分野についても人口や従業員数などが減少しない限りCO_2が減らない計算方

法となっているため、参考資料１に示している温室効果ガス排出量は意味をなさないのではないかと感じる。

事務局　：ご意見はおっしゃる通りで、市内にある事業所の取組状況を反映した排出量算定はできていない。しかし、参考資料１の１ページ目で示している数値について、国や茨城県、県内の他自治体の数値と比較して守谷市がどういう傾向にあるかなどは確認できる。そのため、施策などを進めるうえでの目安にできると考えている。

加藤委員：参考資料１に示している温室効果ガス排出量の出典は環境省のデータであるか。参考資料１のP.４に茨城県の製造業炭素排出量が示されているが、例えばこの数値はアサヒビールの排出量であればアサヒビールに直接排出量を聞いているのか。

事務局　：後日、環境省に問合せの上、回答する。

加藤委員：私の推測ではあるが、守谷市がどれくらいの温室効果ガスを排出しているのかという点について、製造品出荷額の比率に基づいて算出されている。もとになるのは、茨城県全体の排出量である。これについても、実際の正確な数値が存在し、それに比例配分する形で算出されていると理解している。理屈としては筋が通っているかと思うが、そこで重要になるのは、茨城県の排出量をどのように把握しているのかという点である。

例えば、資料２－１のP.４にある表について、右側に評価を示す折れ線グラフがある。この数値が正確でなければ、排出量は減少しているのか、それとも増えているのかという議論自体が意味をなさなくなってしまう。何らかの基準に基づいて算出し、その基準が適切に維持されているのであれば問題はないと思うが、その点についても確認が必要かと思う。

また、環境省がどのようにデータを算出しているのかについても、教えていただきたい。

さらに、先ほどの説明では、2020年からのコロナ禍の影響により生産活動が縮小し、それに伴いCO_2の排出量も減少したという説明であったが、その点については、データの推移を見る限りその通りかと思う。しかし、R３年度では、これまでの減少傾向から転じて増加傾向となっている。これは、コロナが収束し生産活動縮小が解消され、排出量が増加したと考えられる。

しかし、それは本来目指すべき方向性とは逆行しており、CO_2排出量は削減すべきにもかかわらず、むしろ増加していることは問題だと思う。そこで重要なことは、コロナ前のピーク時の数値と比較し、コロナの影響による一時的な排出量の減少と、実際に削減のために取り組んだ成果をどのように判断するかということだ。その点について、何か把握されている情報はあるか。また、コロナ禍においても、排出量削減に向けた努力は続けられていたはずなのであれば、

その取り組みがどのように反映されているのか、教えていただきたい。
　温室効果ガス排出量が削減傾向となっているならば、それは評価すべき成果であると思う。しかし、もし全く減少していないのであれば、そこに課題があると考えられる。その点について、ご説明いただきたい。

事務局　：今この場でご回答することができないので、また改めて回答させていただく。

清野会長：質問や意見等があれば随時出していただきたい。続いて、第２回環境審議会においてもご意見いただいた望ましい環境像や、それに関わる環境基本計画の体系、目標や方向性を議論できればと思う。その体系図に合わせた具体的な施策の検討を進めていきたい。資料２－２の論点１について説明をお願いしたい。

【事務局より資料２－２　論点１「守谷市が目指す望ましい環境像の検討」の説明】

清野会長：現行計画や緑の基本計画、総合計画の将来像等の事例を参考に、第３次守谷市環境基本計画の望ましい環境像を検討するための説明をしていただいた。委員からだけでなく事務局からも率直な意見あれば出していただいていきたい。

事務局　：事務局の方で複数案作成した。標語そのものを確定させることは難しいと思うが、ある標語のこの言葉を望ましい環境像にいれたいなど、まずは将来像や、それに対する想いなど自由にご意見いただきたい。

清野会長：望ましい環境像７つ提案いただいた。なかなかいいものが入っていると思う。これについて、委員の皆さんから、率直なご意見をいただきたいと思う。本日望ましい環境像を確定しなくても結構ですので、今日は意見をいただいて、また事務局の方で再検討していただき、次回の審議会で提出していただく流れとしていきたい。

加藤委員：資料２－２のP.１に現行計画が抜粋してあるが、「快適な暮らし」について市の居住環境は「全国トップクラス」とされているが、これを数値化できないだろうか。居住環境が何を指すのかを考えると、例えば「安心して暮らせる街」「利便性が高い」「快適である」などが含まれるかと思う。ただ、これらを具体的な指標で示さなければ、将来的に評価が下がった際、その要因を分析することが難しくなる。例えば、現在はトップクラスとされていますが、その評価基準がどのようなものなのか。仮に 10 年、20 年後に全国的なランキングで順位が下がった場合、「何が変わったのか」を検証する必要があると思う。そのためにも、「快適度」の要素を数値化し、例えば利便性や子育てのしやすさといった項目ごとに評価することが有効ではないかと思う。
　また、「利便性」とは具体的に何を指すのかも明確にする必要があると思う。例えば、「東京へのアクセスの良さ（TX での移動時間）」などが含まれるのか、

あるいは別の要素があるのかを整理し、指標化することで、現在の「トップクラス」との違いをより客観的に理解できるようになる。必ずしも「ナンバーワン」を目指す必要はありませんが、一定の順位を維持し続けることは重要かと思う。そのために、目標を設定し、どのように改善していくのかを明確にすることが求められると思う。

一方、もし大幅に順位が下がった場合、例えば「2024 年時点ではベスト５だったのに、なぜ評価が落ちてしまったのか」といった議論が生じるかと思う。その際、評価基準が単なる印象に頼ったアンケートだけではなく、数値化できるものがあるのであれば、それを活用すべきではないかと思う。

事務局　：ありがとうございます。

清野会長：率直に感想的なものでも結構なので意見を出していただきたい。資料２－２の方に、市の総合計画と緑の基本計画の記載もありますので、改めて説明していただきたい。

事務局　：資料２－２の P. ２を説明する。こちらは、「第三次守谷市総合計画・第２期守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に記載されている将来像となっている。将来像は「水と緑のパワースポット　もりや」としており、副題として「持続・創造・進化するまち」と記され、さらにその下には、「私たちは子どもたちの未来に約束します」として３つの以下項目を掲載している。「恵みをもたらす水と美しいみどりを残します」、「快適で心豊かに暮らす自慢の街をつなぎます」、「地域で協力し合い活力ある未来に向けて挑戦します」となっている。このように、スローガンに加えて、副題の形で具体性を持たせた将来像となっている。

次に、P. ３については、「第二次守谷市緑の基本計画」からの引用した緑の将来像を示しており、「守谷の豊かな緑を保全・継承し、さらにグリーンインフラにより、世代を超えて人と緑がつながる、幸福～well being～にあふれるまち」となっている。緑の将来像下の文章についても、この将来像やスローガンを具体化するためのものとなっている。

そこで、環境基本計画の将来像について意見を伺いたい。また、緑の基本計画のようなスローガンを具体化させる文章についても併せて意見していただきたい。

ただし、将来像やスローガン、計画の将来像を具体化させる文章をいきなり定めることは難しいと考えられるので、まずは「守谷市が将来的になって欲しい姿」といった環境の視点からの意見を伺いたい。

委員の意見がそのままスローガンになるわけではないが、将来像をより良いものとするために、環境基本計画と結びつける形で事務局でも検討を進めていきたいと考えている。スローガンの提案の他に、背景や将来的にこうなってほしいという想いも含めて、ご意見いただきたいと考えている。

清野会長：ありがとうございます。似たような言葉がよく出てきている。確かに、市の総合計画でも「水と緑のファースト」といった表現が使われているし、緑の基本計画でも、ウェルビーイングのような言葉がよく登場する。最近では、「グリーンインフラ」といった表現もよく使われるようになったが、これも新しい取り組みの一つではないかと考えている。

なかなかこのあたりは、急に意見を出すのが難しい部分もあるかと思うが、議論を重ねながら進めていきたい。小休止をとった後に、次の論点へと進めたいと思う。

次の論点では、具体的な体系について議論を進めていきますが、休憩中に何かアイデアが浮かんだら、論点１に関する基本的な方向性についても、ぜひ意見していただきたい。

【休憩】

清野会長：次は論点２を議題とする。先ほど議論した論点１についてもいい考えがあったら質疑応答の時間に意見を出していただきたい。それでは、論点２の説明を事務局からお願いする。

【事務局より資料２－２　論点２－１「第３次環境基本計画の体系の検討」の説明】

清野会長：基本的に体系の問題になるが、ご意見があれば伺いたい。

まずは、私からの意見を申し上げる。各基本目標における取組や施策についての意見ではないが、基本目標ごとの施策の展開における掲載順について、守谷らしさ、守谷市民の意識を上げるということが非常に重要な点であるため、守谷市が重点を置く自然環境を考慮し、「自然環境と生物多様性に関する目標を一番にしてほしい。また、取組や施策の内容については、国や県でいろいろな計画を持っているため、そういった中で守谷らしさを盛り込んでいければいいと思っている。全体の構成について、他に意見があればいただきたい。

清野会長：連続して意見を申し上げる。先ほど事務局から別紙１として７つの標語が提示されたが、文言から見ると、自然環境のことが頭に浮かぶ。また、幸福やウェルビーイングといった言葉もでてくる。

資料２－２の P. ５には、資源循環や廃棄物の問題なども生活の快適度など生活に身近なものとして含まれてくるのかなと思っている。脱炭素や地球環境は確かに大切なテーマだが、地球規模の話になるため、私の考えとしては、まず自然環境を１番にして、次に資源循環や廃棄物問題を２番目に置くべきだと思う。これも市民の日常生活に密接に関係する問題である。地球規模の問題を取り上げることは理念としては立派だが、一般論という位置付けでいいと考える。以上の考えより、望ましい環境像のスローガンやイメージが、自然と繋がってくるのではないかという気がしている。脱炭素や地球環境という言葉は、スロ

ーガンの中にはあまり出てこないですよね。どうしても守谷市民の日常生活という視点からは、少し距離があると感じる。自然環境や住みやすさといったテーマは、市民の日常生活に非常に身近な問題であり、市民の興味にも深く関わるところだと思う。

議論の流れとしては、この「論点２」の部分は各論に入っていくので、今回の審議会である程度方向性を決めておいた方がいいと思う。スローガンの部分は後からいくらでも入れ替えられるとは思うが、現時点での委員の考え方を聞かせてほしい。

基本目標や全体の体系図について、教育の問題をどう位置づけるかは重要だと思っているが、大きな枠組みから見て項目については大きな問題はないと思う。時間の関係もあるので、皆さんからのご意見をお伺いしたい。

松井委員：目指す姿については、現行の環境像はまとまっていて、含まなければならない目指すべきワードやポイントも入っていてわかりやすいと思う。新しいスローガンと見比べても現行で欠けてる要素はないと思う。例えばウェルビーイングなどの新たな要素があればこれにプラスするというのもいいと思う。基本的には現行をベースにして問題ないと思う。

構成についても含むべきワードは入っているので、順番については先ほど会長がおっしゃられていたように、自然がベースになってくるとして、生物多様性や生活環境などを最初に持ってきて、脱炭素とかは後の方の順番になってくると思う。下に位置する取り組みについても後ろの方に持ってく方が分かりやすいと思う。

滑川委員：構成の方は、会長の方から生物多様性を最初の方にということで説明があったように、環境基本計画がだれのものなのかという観点からみると、市民に身近なものから並べていって、それが結果的に脱炭素につながるという流れにした方がいいと思う。

望ましい環境像については、７パターン考えていただいたが、私の思うところでは作ったものを与えられるのではなくて、みんなが作りあげていくものと考えている。事業者･自治体･市民の三位一体で作っている姿が将来の守谷の環境を守る姿なのかなと思う。

飯田委員：望ましい環境像の方ですが、第２次の計画のものであっても大体網羅されていると思う。その下にある豊かな自然、アンケートの結果とか、住みよさランキングに基づく快適な暮らしなどは、現状の話のため具体的にこういう環境を構築していきたいという目標、目指す環境像を下の文章には入れるべきと思う。

鈴木委員：昔からこれまでの守谷市をみると農村地帯、公団が入ってきて、住民が増えてきた。住民の大半は東京都で働いている。この流れが何十年も続いている。住宅地がスプロール化していくと大変だ。常に新しい人が流れ込んで、活性化し

ている状態を作らなければいけない。

そのためには、アンケートで約８割の市民が、自然が非常に多いということを感じているので、新しく入ってきた人たちが大きな魅力として感じているのは事実だ。やはり自然環境を守ったり、育てていく環境が必要だろうと思う。

しかし、いろんな意味で循環型という中で、ごみの問題も重要になってきた。守谷市内の住環境をみたときに、スプロール化しないように人を集めていくことが、ごみ問題でみたときに重要となる。守谷は農村と住宅地をうまく分割しているところによさがある。暮らしというものについては循環型という形の中で、うまくサイクルするようにしていかないといけないと思う。住んでくれる人たちが「豊かなところだ」と、「ここに住んでよかった」と思ってもらえることが、暮らしと自然の三つが合わさった形で進んでいくのが１番いいんじゃないか思う。

月岡委員：結婚して守谷に来てから 50 年経つ。来たときは地平線が見えるくらい農地がたくさんあったが、今は家だらけで視界が悪くなった。

農家を営んでいるが、落ち葉とかほこりの苦情が多くて、何千万円もかけて木も切ったことがある。緑があっていいという人と、緑があることが邪魔だという人が２通りいる。斜面林を多く保有しているが、両方から意見を言われどうすればいいか分からず悩んだことがたくさんあった。しかし、木が倒れた場合どうするのか言われ、ついに木を切ることにした。

緑豊かな生活というのは、いろんな問題を抱えていて、市長があいさつで話したように、木があっても保全、維持管理にお金がかかってしまう。敷地が大きくて木がいっぱいあるが、高齢化も進む中で、管理ができなくなってきている。毎年木を切っており、緑豊かと相反する行動ということで、常に悩んでいる。

また、周りに幼稚園とかあるとほこりがたって苦情が来たりすることもある。緑は空間にもなる。住宅ばかりであると災害の避難場所にもならない。緑と触れ合うのもいいことなのですが、守谷という開発もあるし農家もあるという過渡期の都市で、どこまで守谷の緑を守って、どう緑豊かな街を作っていくのかなっていう個人の不安がある。

中村委員：私の家も同じく、周囲の人に家の木を切ってくれ、とよく言われるので、葛藤している。

望ましい環境像は、市民にむけてってことなので、高齢者から小さいお子さんまでわかりやすい表現にする点、長年にわたるものなので、その時々の流行りとかではなく、何年立っても古びない表現にすることが大切だと思う。

仲田委員：会長がおっしゃったように、守谷市民が求めているもの、行政として今後 10 年間で何を推進したいか、この環境基本計画に基づいて今後の施策展開がされると思うので、事務局の方でここは推していきたいというところがあったら、そ

ういったものも強調して書いてほしいと思う。守谷市として緑を推したいということであればその点を強調していただければと思う。

稲川委員：環境像について、現行計画のままでいいと思う。

加藤委員：考えが漠然としているが、100 年、200 年先を考えたときに守谷市が自立して進めることが良いと思っている。何かというと、食料やエネルギーの自給自足。この２つがあれば他に頼らなくても自給自足でやっていける。災害の多発、地球温暖化に伴い災害が多発しており、今後どのように気候変動していくか分からない。権威主義的な動静を考えても、自立が大切だと思う。

他の国でもシェルターとかあるが、自給自足の意味合いで行くと、耕作放棄地がどれくらいあるか、風力や地熱はなく、ソーラーパネルも景観の兼ね合いであまり使えない。そういったものも包含して、自給自足を念頭にしたエネルギー創出をどのように考えられたらいいと思っている。こういった中に大きなビジョンを描かないとできないと思う。

清野会長：全体を通してなにかありましたら、またお願いしたい。意見を踏まえると、項目の並べ方については、身近なところでいうと、１番目が自然環境、２番目が生活のごみなどの問題、そして３番目に地球環境の問題とすることが適当だと思う。

環境活動をどうするかについて考えると、環境活動は脱炭素社会や生物多様性の保全、資源循環型社会の構築を進めるための手段であると考えられる。そのため、手段を目標にするのはおかしいという意見もあった。一方で、心の内なる環境として目標のひとつとしていいんじゃないかという意見もあった。そこも含めて意見があればお願いしたい。

飯田委員：会長がおっしゃられた環境活動すごく大事だと思う。守谷の緑が豊かだというが、放ったらかしにしていい緑じゃなく、もともと雑木林だったものが、手入れがなされていい状態になってきたもので、放っておくと笹やぶになり、見た目も悪くなるだけでなく、犯罪者の隠れ場所になるなど色々弊害が出てくると思う。しかし、管理や保全は、持ち主だけではできなくなる時代に入っていくため、市民が高い意識をもってみんなで協力してそういったところをきれいにしていくような守谷市ができればいいと思う。

清野会長：今後、枠組みを決めないと進められないと思う。まずは、論点２については、目標の順番を入れ替え、自然環境を１番目に、資源循環を２番目に、脱炭素が３番目にするということでまとまったと思う。環境活動については、項目として残してほしいということでよろしいか。

≪一同 異議なし≫

それでは、大きな柱４つにしていただくということで今後の作業を進めていただきたいと思う。

環境像については、委員の皆様から意見いただいたので、もう一回事務局で検討していただき、次回審議会で提案していただきたい。

事務局：　基本目標については大きな柱４つにするということであるが、今回の別紙２の「安全で安心な生活環境の形成」については、公害等を管轄している部分のため、環境基本計画という意味では外すことはちょっと難しいと考えられるため、こちらは継続でよろしいか。

清野会長：了解した。それでは、「安全で安心な生活環境の形成」については継続でお願いしたいと思う。では、環境基本計画ついては、ここで終わりたいと思う。

（３）令和６年度版 守谷市環境報告書について

※省略

５．閉会